

講演2:「北海道で見られるザリガニ類の生態 ~減る在来ザリガニ,増える外来ザリガニ」
中田和義氏(北海道大学大学院 水産科学研究院 海洋生物学講座)

北海道大学の中田でございます。私の講演では『北海道で見られるザリガニ類の生態』ということで、その中でも特に、減る在来ザリガニと、その一方でどんどん増えていく外来ザリガニにスポットを当てていきたいと思っております。

北海道で見られるザリガニの種類については、在来ザリガニはお馴染みのニホンザリガニのみです。外来ザリガニは、ウチダザリガニとアメリカザリガニがいるわけですが、今日は特にウチダザリガニに焦点を当ててお話を進めていきたいと思っております。

今日は大きく6項目に分けてお話いたします。一つには「知られざる在来種ニホンザリガニの生態」ということで、ニホンザリガニのさまざまな生態についてご紹介した上で、「清流のシンボル・ニホンザリガニは減っているのだろうか？」ということについて、詳しくお話させていただきます。二番目には「北海道に定着した外来種ウチダザリガニの生態」です。最近、外来種でありますウチダザリガニが何かと問題になっているわけですが、いったいどういった問題があるのか？について詳しく見ていきたいと思っております。三番目はウチダザリガニがどんどん広がっていくと、ニホンザリガニに対してどのような影響を与えるのかということについて、私どもは色々と研究を進めているのですが、今日はその中から、「ウチダザリガニはニホンザリガニを食べるのだろうか？」という研究例を紹介させていただきます。そして四番目については、外来種ウチダザリガニはどのようにしてどんどん広まっていってしまうのか？、どうして新たに定着してしまうのか？について、それに関連して児童と大人によるウチダザリガニに対する認識、つまり子どもや我々大人がウチダザリガニに対してどういうふうに考えているのか？について、アンケート調査で得られた結果をもとにご説明させていただきます。五番目は「ニホンザリガニの保全を実現するにはどうしたらいいのか？」についてです。私たちにいったい何ができるのか？、市民レベルでできることがあるのか無いのか？、そういった話をさせていただきます。そして最後に六番目としまして、ザリガニ類の標準的な調査方法に関して、これは5番目にも関係することですが、正確なモニタリングをおこなうにはどうしたらいいのか？ということについて、私たち市民レベルでもできるモニタリング方法に関するお話をさせていただきます。

それでは早速内容に入らせていただきます。まず一番目の「知られざる在来種ニホンザリガニの生態」に入ります。これはニホンザリガニの写真でして、このように大きくなっても体色は茶褐色のままです。本種の体サイズについては、最大でも約7cmから8cm程度で、これは世界のザリガニ類の中でも小型の種類に相当します。本種はザリガニ類では唯一の日本固有種です。しかもその分布域は、北海道と東北地方北部のみに限られています。これは何を意味するかと申しますと、世界は非常に広いわけですが、その中でも日本にしか生息していない、しかも北海道と東北地方北部にしか生息していない、さらにその主要な生息地というのは、我々が住んでいる北海道です。このように、世界でもこのような極めて限られた地域にしか生息していな

い、とても貴重なザリガニとすることができます。ところが、後ほど詳しくお話いたしますが、この貴重なザリガニが、今や、絶滅の危機に瀕してしまっていることについては、ご存知の方も多いと思います。日本で絶滅の危機に瀕しているということは、すなわち、地球からその姿を消してしまう危機に瀕していることにもなってしまいます。

ニホンザリガニの分布域の南限は、秋田県の大館市にある生息地でして、この生息地については天然記念物に指定されています。主な生息場所は河川源流部・沢などのほか、湖や沼にも生息しています。これらの生息場所に不可欠な条件としては、水温が低く、綺麗な水である、ということが挙げられます。このように本種は「北海道の清流のシンボルの生物」であると言えます。

これはニホンザリガニの生息地についてタイプ別に示した写真です。この写真は河川源流域のニホンザリガニの生息地になります。この辺りは歩いて行くと足がズボズボと埋まってしまう、半ば湿地帯みたいな感じになっています。この写真は湧水池になります。これは下からどンドン地下水が湧いてきていて、水がこのように溜まっています。ここにも非常にたくさんニホンザリガニが生息しています。こちらは沢の写真になります。このようなところでは石をめくっていくと、ザリガニがたくさん見つかります。そしてこれはニホンザリガニが棲んでいる、ある湖の写真です。この湖にもニホンザリガニがたくさん生息しています。このようにニホンザリガニの生息地には、いくつかのタイプがございます。

「帯広講演につづく」